

今回は、今まで記載させていただいた事を改めて抜粋で伝えさせていただきます。

vol.61 「議場で謝罪を行いました。」今後はマイナスからでも、市川市の「本当の意味での民主主義のあり方」について、焦らず議論を深めていく。vol.62 「最もやさしい『GDPと経済成長』の話 後編」成熟した社会とは「経済成長の質を問える社会」である。vol.63 「決戦！？9月議会 in 2014」市民の皆さんがレポーターとなり、道路の傷みや公園の遊具の破損、ごみの散乱等、地域の問題点をスマホ等を使用して、写真や情報を投稿し、情報を共有していくのは、時代の流れにあっている。vol.64 「良い市川市の作り方、前編」100年後の未来のためであれば何も怖くない。失敗しても、また突っ込んでいけばいい。vol.65 「良い市川市の作り方、後編」みんなが誰かの後をついていくと言っているようでは、良い街にならない。vol.66 「自殺者0人の社会を目指して part.6 前編」ネット社会を中心に、屈辱の文化では、他人に恥をかかせる事に値札がついており、恥をかかせる事で利益を得る事ができる。これは危険な流れである。vol.67 「自殺者0人の社会を目指して part.6 後編」ネットでのやりとりも情報入手も思いやりを心がけてする事が大切であり、他人の気持ちを考える事が大切である。vol.68 「政治家の新しい仕事のあり方」市民にとっては「陳情のあげ方」議員にとっては「陳情の通し方」これは、問題の根本的な解決にならない。vol.69 「草の根政治の限界と可能性」周りから見たら変かも知れないけど、多くのチャレンジが、やっぱり、街を変え、市川市を変えていくと信じている。選挙直前に「私はこんな事しました！」と言い出すのは、後付けで何とでも言えるのではないか？吟味し切れないのではないか？と思い、「4年に一度だけの評価ではなく、常に皆さんが、私を厳しい目で評価し、議員をさせて良いか判断できるようにしたい。」という想いで7年間、駅頭活動が続いています。皆さんで「今後も住みたい市川市」を思い描き、話し合ってください。個々人の想いが集まれば、良い社会が形成されると信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成29年9月19日

増田好秀